

固定チームナーシング研究会 地方会だより

第23回鳥根地方会 固定チームナーシングで看護の良さを感じよう！信頼と共感を育むチーム活動を目指して！

鳥根

第23回固定チームナーシング鳥根地方会担当
眞庭知子[益田赤十字病院]

固定チームナーシング鳥根地方会は、2022年6月26日に、オンライン形式で開催しました。ここ2年間は、コロナ禍で鳥根地方会を開催することができませんでした。今年度は対面での開催ではないため、運営側としては大きな不安がありましたが、県内外の8施設123名の多くの皆様にご参加いただきました。

今年のメインテーマは、「固定チームナーシングで看護の良さを感じよう」、サブテーマを「信頼と共感を育むチーム活動を目指して」として、2部構成のプログラムで実施しました。コメンテーターとして西元勝子先生や北神洋子先生、杉野元子先生にもリモートで参加していただきました。

現在、コロナ禍において、看護現場は多忙を極めており、じっくりと患者や家族の思いを聴く機会が減っています。さらに、在院日数の短縮化や勤務形態によって受け持ち看護師が十分にかかわっていない現状もあります。そのような中で、患者や家族の信頼を得て、意思決定を支援していくには、どのような看護を提供していけばよいのだろうかという運営側の思いを出発点にした開催でした。

第1部では、急性期病院3施設と重症心身



オンライン会場に季節の花で飾り付け



ホスト側の会場の様子

障がい児病棟、訪問看護ステーションの5施設から実践報告がありました。コロナ禍で面会制限がある中、固定チームナーシングの機能を活用して取り組む姿が伝わってくる発表内容で、画面越しから伝わってくる参加者の熱いパワーもあり、活発な意見交換の場となりました。また、先生方から多くのアドバイスをいただき、今後の活動のヒントを得ることができました。

第2部では、杉野元子先生に「チームで患者の意思決定を支える支援」をテーマに、16冊の書籍の紹介を交えながら、ご講演いただきました。先生ご自身の患者としての経験から感じられたことを語っていただき、自分たちの看護を振り返るきっかけになりました。また、患者の一番身近にいる看護師がリーダーシップを取り他職種と連携を図ることの重要性や、専門職としてのナースに期待する役割や行動についてもわかりやすくお話をしていただきました。その中でも、先生の「ナースの出番ですよ」の言葉は、より印象に残りました。充実し、引き込まれる内容で、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

参加者からは、「明日からの活力になった」「看護って楽しいと感じた」「改めてやりがいのある仕事だと思う」「他施設の実践報告を参考にしたい」など多くのご意見をいただきました。今回はオンライン形式でしたが、看護や介護の現場で頑張っている固定チームナーシングの仲間と「つながる」ことの大切さを改めて感じた地方会でした。

次回、第24回鳥根地方会は、2023年6月に江津済生会病院で開催予定です。多くの方の参加をお待ちしております。

2 022年6月25日に、固定チームナーシング研究集会第24回鳥取地方会を開催しました。鳥取県立中央病院が担当させていただくことになり、楽しく実りのある時間となることを期待して当日を迎えました。

ハイブリッド開催となり、オンラインではありませんでしたが、固定チームナーシング研究所所長名誉会長の西元勝子先生、看護組織開発研究所所長の杉野元子先生、固定チームナーシング研究所会長の北神洋子先生にご参加いただくことができました。

この約3年もの間、新型コロナウイルスにより、私たち医療者を含めた人々の日常は大きく変化しています。また、働き方改革とタスク・シフト/シェア、AIやロボット技術の導入など、私たちに関わる現場も変わり続けています。2025年には国民の5人に1人が後期高齢者となる超高齢社会となり、大きな分岐点を迎えます。このような状況に対応するためにも、テーマを「変化する時代に対応する固定チームナーシング」とし、7施設の方々に発表していただきました。

当日は、「HCUにおける意思決定支援～患者・家族の思いに寄り添って～」[生活背景に応じた療養環境を提供したせん妄発症予防、



鳥取

固定チームナーシング研究会 地方会だより

第24回固定チームナーシング鳥取地方会担当
西山あゆみ[鳥取県立中央病院看護局長]

早期離脱に向けたチーム活動」「腎臓病療養指導とチームリーダーとしての関わり」などをテーマとした発表があり、固定チームナーシングを活用することで看護の質が高まり、世の中の変化にそれぞれが柔軟に対応されている現状を共有しました。質疑応答も活発に行われ、先生方のご意見やご好評をいただくこともできました。

後日のアンケート結果では、「先生方の意見を聞くことができ、よい刺激となった。今後の活動への意欲に繋げることができた」「変化する時代のテーマに沿って、様々な新しい取り組みの成果を知ることができ、よかった」「他施設の試みを知るよい機会であった。参考にしたい」などの意見がありました。

時代は変化していますが、固定チームナーシングの基本は変わりません。部署の長がリーダーシップを発揮し、メンバーが役割を自覚して他職種と共働する。そして、私たちを取り巻く状況に対応しながら、看護ケアの質を高めていくことが必要です。今回の会は、看護の力を発展させるために、モチベーションを高めながら、看護師としてのさらなるスキルアップを目指すよい機会となりました。



固定チームナーシング研究集会 第24回鳥取地方会を終えて